

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：9月ユーロ圏消費者物価(速報)

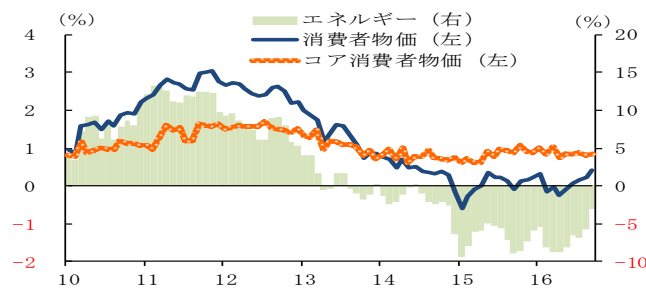
発表日：2016年9月30日(金)

～泰然自若のコア物価～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

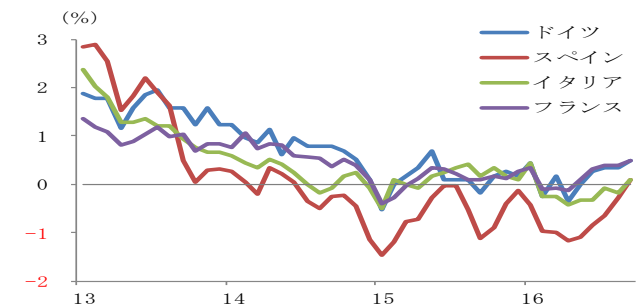
- 9月のユーロ圏の消費者物価の速報値は前年比+0.4%と前月(同+0.2%)から上昇率が加速し、2014年10月以来の水準を記録した。速報段階で公表される内訳は、エネルギー価格(前月：同▲5.6%→今月：同▲3.0%)の下落率が大きく縮小し、食料・アルコール・たばこ価格(同+1.3%→同+0.7%)の上昇率縮小を相殺した。コア物価(同+0.8%→同+0.8%)は前月対比で不変だった。
- 現時点で公表されている国別の消費者物価(何れもE U統一基準)は、ドイツ(同+0.3%→同+0.5%)とフランス(同+0.4%→同+0.5%)で上昇率が加速し、イタリア(同▲0.1%→同+0.1%)が8ヶ月振り、スペイン(同▲0.3%→同+0.1%)が28ヶ月振りにプラス圏に復帰した。
- エネルギー価格の反転時期が遅れていたものの、前年同月の落ち込みが大きかった反動もあり、今月は下落率が大幅に縮小した。OPECの減産合意が持続的に原油相場を引き上げるかは今のところ定かでないが、原油先物価格の推移から判断して、来年早々にはエネルギー価格がプラス圏に浮上する可能性が高い。ただ、コア物価の低迷が続いている。サービス価格(同+1.1%→同+1.2%)がやや加速したものの、発表済みの国別の内訳からは、振れの大きいパッケージ旅行が上押しした可能性がある。
- 最近のECB高官の発言からは、コア物価や期待インフレ率の低迷にもかかわらず、追加緩和を急ぐ姿勢は感じられない。ただ、このままコア物価の低迷が続けば、来年には2013年前半以来となる1%台前半に浮上するとECBスタッフ見通しとの乖離も目立ってこよう。来年3月に量的緩和の終了期限を控えることもあり、12月の理事会で緩和延長が示唆されるとの見方を維持する。

■ユーロ圏：消費者物価(前年比)



注：コア物価は食料・タバコ・アルコール・エネルギーを除く  
 出所：Eurostat

■ユーロ圏：主要国の消費者物価(統一基準、前年比)



出所：Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価(%)

	2015				2016											
	4Q	1Q	2Q	3Q	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
消費者物価(前期比)	-0.1	-0.4	0.4	-	-0.2	-0.1	0.3	0.0	0.3	0.2	0.0	-0.0	-			
消費者物価(前年比)	0.2	0.0	-0.1	0.3	0.3	-0.2	-0.0	-0.2	-0.1	0.1	0.2	0.2	0.4			
コア消費者物価(前年比)	1.0	1.0	0.8	0.8	1.0	0.8	1.0	0.7	0.8	0.9	0.9	0.8	0.8			
食料/アルコール/たばこ(前年比)	1.4	0.8	0.9	1.1	1.0	0.6	0.8	0.8	0.9	0.9	1.4	1.3	0.7			
食料(前年比)	1.3	0.6	0.6	-	0.7	0.3	0.6	0.6	0.6	0.6	1.3	1.1	-			
アルコール(前年比)	0.7	0.9	0.9	-	1.0	1.0	0.6	1.0	0.9	0.9	0.8	0.8	-			
たばこ(前年比)	3.0	2.2	2.5	-	2.7	1.9	1.9	2.0	2.7	2.7	2.4	2.3	-			
エネルギー(前年比)	-7.2	-7.4	-7.7	-5.1	-5.4	-8.1	-8.7	-8.7	-8.1	-6.4	-6.7	-5.6	-3.0			

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。